

第17回千葉県地域連携の会 開催要項

～ ケアをつなぐ動画の活用 ～

- 1 目的 医療、介護、福祉、行政等の関係者の皆様と、地域の抱える課題や必要な対策を議論し、より望ましい医療提供体制の構築を目指します。
- 2 日時 2024年2月1日（木）13:00 から 17:00
- 3 場所 千葉大学医学部附属病院 外来診療棟3階（千葉市中央区亥鼻1-8-1）
- 4 開催方法 対面
- 5 主催 千葉大学医学部附属病院
- 6 参加 医療・介護・福祉・行政等関係者、当院教職員 等
- 7 参加費 無料
- 8 申込み ホームページからお申込みください。

https://www.ho.chiba-u.ac.jp/hosp/medical/info/med_20231130.html

（右記QRコードにより、スマートフォン等からのお申込みも可能です。）



※参加者への配付資料（抄録集）に施設紹介を掲載しますので、掲載をご希望の場合は、上記ホームページによりお申込みください。

- 9 申込期限 2023年12月10日（日）【動画申込】
2024年 1月21日（日）【参加申込】

10 プログラム（予定）

※敬称略

ガーネットホール

13:00～13:15 オープニング

開会

- ・主催者挨拶
- ・来賓挨拶（千葉県医師会、千葉県看護協会）

13:15～13:30 基調講演

医療における動画活用のポイントについて

ウチカラクリニック代表 森 勇磨 様
（予防医学 ch/医師監修 管理人）

- ・医療での動画活用のメリット
- ・活用事例（クリニック、YouTube 等）
- ・動画作成時に気を付けていること
- ・YouTube で公開するときの葛藤

13:30～14:00 上映会①

上映会①

優秀作品の動画を上映し、トークセッションを行います。

14:15～15:00 上映会②

上映会②

優秀作品の動画を上映し、トークセッションを行います。

15:15～16:00 上映会③

上映会③

優秀作品の動画を上映し、トークセッションを行います。

13:15~15:00 分科会A

「じぶんらしく生きる」を支える継続看護とは

発表者

- 千葉大学医学部附属病院の看護師・医師等
- 地域関係機関の看護師等

「抗がん剤が大変ようになってきているけど、治療や生活をどう考えているのかな。でも、いつ、どのように切り出そう…？訪問看護も必要かな…？」、「患者さんと家族の意向が違うけど、どのように関わったら良いかな」など、先を見据えた関わりや地域へ繋ぐタイミング、意思決定支援に悩んだことはありませんか？

病院や地域など、様々な立場の看護師が、事例を用いてディスカッションを行い、今後の実践や地域連携に活かせることを見出したいと思います。職種は問わず、ご参加ください。

15:15~16:00 分科会C

地域医療機関と大学病院を繋ぐ：医師間オンラインコンサルテーションシステム構築の試み

発表者

- 消化器内科・講師
小笠原定久
- 消化器内科・助教
叶川直哉
- 消化器内科（内視鏡センター）・助教
對田尚

地域医療の現場では、診療が難しい症例にしばしば直面します。しかし、全ての患者が専門医のいる大学病院に受診できるわけではありません。専門医療機関が都市部に集中しているため、地方では最新医療へのアクセスが特に問題となっています。高齢者や身体に障害のある方々にとって、都市部の専門医療機関へのアクセスはさらに難しくなっています。また、多忙な地域の医師たちにとっても、常に進化する最新の治療法を追いかけるのは困難です。

数年前から、私たち千葉大学医学部附属病院・消化器内科内の有志は、地域医療機関と大学病院をつなぐオンラインコンサルテーションシステムの開発と運営に取り組んでいます。このシステムを使えば、アカウントを持つ地域医療機関の医師が、大学病院の専門家からアドバイスを受けることができます。また、診断や治療で困っている医師や患者にとって、このシステムは無料で利用できます。

昨年からはじめた消化器疾患に関する実証実験では、大学病院からのアドバイスのおかげで、多くの患者が遠方の大学病院へ行かずに地域で治療を受けられるようになりました。

13:15~14:00 分科会B

千葉県移行期医療支援センターの4年間の取り組みと今後の課題

発表者

○小児科・移行期センター
医師

日野 もえ子

○患者支援部・移行期センター

江島 咲紀

○千葉県健康福祉部疾病対策課 副主査

井上 恵美

千葉県移行期医療支援センターは千葉県から委託を受け2019年に設置された。設置前の2018年に千葉県における移行期医療支援体制の実態を調査し報告した。2022年に2回目の調査を行い、センター活動の評価と今後の課題を抽出した。75機関より回答を得た。

「移行期医療の概念を知っているか」に対して「知っている」は18年28/46(60%)から22年44/50(80%)に増加した。院内に移行期支援体制が「ある」と回答したのは3/38(7.8%)から6/50(12%)に増加した。18疾患群ごとの調査では18年は悪性新生物、先天代謝異常、染色体疾患等5疾患群が「ほとんど成人移行できていない」が半数以上だったが、22年は0群であった。一方、「患者の状態に応じた移行先がわからない」と回答した疾患群は18年7疾患群で3割を超えたが、22年は9疾患群に増えた。センターの設置を「知っている」のは22年調査では32/50(64%)機関であり、相談したことが「ある」のは4/24(17%)、センター研修会に参加したことが「ある」のは6/15(40%)であった。

自由記載では紹介先の情報収集をセンターに期待する意見が複数あった。移行期支援に対する認知が進んだ一方で、支援の困難さを感じる回答が増加した。

センター活動に興味をお持ちの方とセンタースタッフとで今後の支援についてディカッションしたい。

14:15~16:00 分科会D

千葉県がん・生殖医療ネットワーク(COFNET)について

発表者

○がん診療施設・生殖医療施設の医療従事者

令和5年1月に、千葉県がん・生殖医療相談支援センターが事務局を担い、千葉県がん・生殖医療ネットワークCOFNETを発足いたしました。千葉県でがん治療を受けるCAYA世代の患者さんやご家族、がん治療を提供する医療機関の皆様に向け、妊孕性や生殖機能の温存についてどこの施設に問い合わせればよいか情報提供します。がん等の診断・治療を行う医療機関と、妊孕性温存療法を行う医療機関とのスムーズな連携を支援するとともに、妊孕性温存療法の普及のための研修会を開催いたします。

本分科会は2部構成となっており、第1部ではCOFNETの事業内容や県の助成実績についてご紹介いたします。(休憩を挟み)第2部ではがん診療および生殖補助医療のそれぞれの施設から現況と課題についてご紹介いたします。

セミナー室3

16:00~17:00 情報交換会

軽食と飲み物を御用意します。参加者同士の情報交換の場としてご活用ください。

16:30~17:00 見学会（希望者限定）

MR リニアックなど放射線部の見学会

案内者
放射線部

日本にわずか3施設しかない、貴重なMRリニアックを御案内します。また、がん放射線治療についてわかりやすく説明します。